

TOPIC

国際放射線防護委員会(ICRP)の主委員会メンバーが 本学を表敬訪問

令和5年11月1日(水)、国際放射線防護委員会(International Committee of Radiological Protection; ICRP)の主委員会メンバーが、福島県民に寄り添いながら放射線防護と影響研究に尽力している復興医療拠点である本学への表敬訪問を行いました。

今回の訪問は、翌週から始まるICRP2023国際会議(東京)に先立ち、関係各所を視察する前に、最初の訪問地として震災直後から放射線防護と放射線影響研究に尽力している復興の医療拠点である本学への表敬と感謝状の贈呈のためでした。

東日本大震災に引き続き発災した東京電力福島第一原子力発電所事故以降、本学はICRPなど世界の放射線防護や影響の専門家と定期的な国際会議や専門家交流を行って参りました。

特に、ICRP福島ダイアログセミナーでは大変お世話になっています。2014年2月、福島医大とICRPは原子力事故とその長期的影響に関する連携協力覚書を締結し、数回にわたり合同セミナーを開催してきました。



2017年3月には、ICRP主委員会の当時の委員長であるカズンズ議長が福島医大を訪問し、同年11月には「放射線災害・医学研究拠点」を共同設置している広島大学、長崎大学、そして本学とICRPとが連携協力覚書を締結しました。

今回の訪問は、2020年3月以来で、コロナ禍以降はじめての訪問となります。

表敬訪問では、ICRP主委員会の議長であるWerner Ruhm(ヴァーナー・リューン)博士から、本学の竹之下理事長兼学長に感謝状が手渡されました。そして、「ICRPと福島県立医大は今後より一層共同研究を推進していく必要がある。また、ICRPと福島県立医大は協働して、しっかりと被災者に寄り添い、住民の声に耳を傾けていく必要がある」と述べられました。

TOPIC

WHO-REMPAN調整官 Zhanat Carr博士が来学しました

令和5年11月6日(月)、世界保健機関(WHO)公衆衛生・環境部門・放射線と健康ユニットのZhanat Carr博士が、竹之下誠一理事長兼学長を表敬訪問され、放射線医学県民健康管理センターと放射線災害医療センターを視察しました。

Carr博士は、WHO緊急被ばく医療ネットワーク(REMPAN)の調整官を長年勤められ、2012年の本学での原発事故後の国際シンポジウム

への参加を皮切りに5回目の来学となります。

特に、2018年本学がWHO-REMPAN協力センターに初指名されてからその連携が深まっています。

今回は、翌日から始まるICRP2023東京国際会議への参加直前に本学を表敬し、その後浜通りを視察されました。本学では、放射線医学県民健康管理センターの安村誠司センター長をはじめ、関係者からの詳細な事業活動の報告を受



け、有意義な意見交換がなされました。

今後、WHOと本学とは緊急被ばく医療のみならず、放射線健康リスク関連、とりわけ被災者とのリスクコミュニケーションなども含めて、本学の知識と経験を幅広く共有し、REMPAN関係諸国への情報発信に努めることとなりました。

本学教員がハーバード大学 T.H.Chan公衆衛生大学院教授に就任

本学総合科学教育研究センター後藤あや教授が、2024年1月1日付でハーバード大学T.H.Chan公衆衛生大学院 国際保健・人口学講座 武見太郎国際地域保健学教授及び同大学院武見国際保健プログラム主任教授に就任します。

ハーバード大学T.H.Chan公衆衛生大学院は、1913年に設立された米国最古の公衆衛生大学院の一つです。

さらに、1983年にはハーバード大学が日本医師会の協力の下、同大学公衆衛生大学院に中堅の医療従事者のための研究・高度研修プロ

ラム「武見国際保健プログラム(以下、武見プログラム)」を設立しました。

福島とハーバード大学の 公衆衛生の橋渡し役に

来年1月1日の就任を前に、後藤あや教授は、「本県をテーマとしたコースを創設し原発事故後の状況や復興への歩みなどを伝え、本県の現状を理解する公衆衛生の専門家の育成を目指したい」「私が担当するプログラムは保健や医療、福祉分野の中堅研究者に10カ月間で論文を仕上げてもらおう。長年研究してきた母子保健や震災



記念シンポジウムでの講演の様子

復興などの知見を基に特色ある教育を提供する。福島とハーバード大の橋渡し役になりたい」と抱負を述べました。

また、11月11日(土)には武見プログラムの創立40周年を記念したシンポジウムが日本医師会大講堂(東京都)で開催され、後藤あや教授は「デジタルヘルス:世界の潮流」と題して講演を行いました。

SPECIAL REPORT

喜びに満ち溢れた福島県立須賀川支援学校児童生徒さんたちに喝采を

第25回全国院内学級絵画展覧会パソコン部門で 金賞受賞の快挙を

令和5年10月21日(土)、同校児童の紺野蒼汰さんがタブレットを使用して描いた作品が、第25回全国院内学級絵画展覧会パソコン部門において金賞に輝きました。

パソコン部門には計41点の作品が出展され

ましたが、金賞を受賞した作品は紺野蒼汰さんの作品1点だけです。受賞作品名は、「カメタ真夏のジャンボリー」、カメタ(ブラジルから輸入されるウッドキャットの種類)をモチーフとした真夏の祭典が見事に描かれています。



ドクターヘリ・ドクターカー見学で迫力を目の当たりに

令和5年10月11日(水)、同校児童を対象に「小学生のまち体験」の一環として、本学附属病院のドクターヘリ・ドクターカーの見学が行われました。

ヘリポートまで足を運び、フライトスタッフよりドクターヘリについて説明を受けました。児童か

らは「ドクターヘリの燃料は?」などたくさんの質問がありました。当日の外出がかなわなかった児童たちは教室から移動型アバターロボット「temi(テミ)」を自分の手で操作し、臨場感に溢れた見学ができました。



本学学部生との初の交流は、 管弦楽団とアカペラの響きに包まれて

須賀川支援学校医大校からの呼びかけにより、本学学部生との初の交流が実現しました。

令和5年10月6日(金)、須賀川支援学校医大校内で本学医学部生と看護学部生で構成される管弦楽団によるコンサートが開催されました。

また、11月13日(月)には本学附属病院イベントホール「フォレストきびたぎ」で本学アカペラサークルによるコンサートが開催されました。



INFOMATION

いきいき健康づくりフォーラム in 二本松

12月10日

時間 10:00・15:00

会場 安達文化ホール・安達公民館



健康づくりに 役立つ情報満載!

本学健康増進センターでは、福島県及び二本松市との共催により、「いきいき健康づくりフォーラムin 二本松」を開催します。ぜひご来場ください。

●トップ健康トーク

竹之下誠一理事長兼学長、佐藤宏隆福島県副知事、三保恵一二本松市長による福島県のメタボの現状や改善の取組みについてお話しします。

●本学教員による健康連続講座

本学教員が講師を務め、4つのテーマ別健康講座を開催。

●健康応援展示ブース

健康づくりに取り組む団体や企業が役立つ情報を提供します。

詳しくは、
健康増進センターの
HPをご覧ください

